

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和元年9月1日 VOL.117

市民とともに 第3回「平穏死を考えるつどい」開催

令和元年8月24日（土）稲葉地区交流センターを会場に、一般社団法人志太医師会（会長：錦野光浩氏）と藤枝市との共催で、今年度3回目の「平穏死を考える」ための研修会と意見交換会を開催しました。

第1部 事例報告「間質性肺炎の人の在宅看取り」報告者：菅ヶ谷内科医院 菅ヶ谷 純弘 医師



瀬戸谷・稲葉地区を中心に、往診や訪問診療を行ってきた豊富な経験の中から、「間質性肺炎」と診断された人を、薬剤でコントロールしながら看取りをした事例を報告しました。疾患の特徴に「呼吸苦」があり、看ている家族も辛くなりますが、「鎮静」を、精神的・身体的苦痛を和らげるための治療のひとつとして紹介しました。その報告を受け、呼吸器内科が専門の岡田真司医師（聖隷りハビリテーション病院）より、間質性肺炎の病態説明と従来在宅看取りが難しいと考えていた疾患での穏やかな最期についての感想の発表がありました。

第2部 意見交換会「皆さんが思い描く平穏死を語ろう・聞こう・話し合おう」

参加市民が4つのグループに分かれ、各グループに1～2人の志太医師会協力医師（岡田真司氏 木佐森優美氏 杉浦正司氏 菅ヶ谷純弘氏 高橋博氏 錦野光浩氏）が意見交換会の進行や医師の立場でのアドバイスを行い、志太医師会在宅医療サポートセンターのコーディネーターや地域包括ケア推進課の職員がサポートしました。



意見交換会の内容・感想（抜粋）

医師より「医師は治療の専門家ではあるが、平穏な看取りの専門家ではない。超高齢社会になり時代の変化によって求められることが変わってきたと感じた。」

市民より「不安なのに知らないことが多い。もっと情報が欲しい。死を語ると縁起でもないと言われるが、葬式や納骨について自分の希望を伝えたい。希望を聞きたい。」

杉浦在宅医療サポートセンター長 まとめ



「高洲・青島・稲葉と拠点を移しながら地域性を重視してこの会を運営してきたが、まだまだ市民周知に課題が残る。次回、4回目は市域全体を対象に、2～3月頃に開催したい。まだまだ発展途上の議論であり、市民とともに深めていきたい。」とまとめがありました。

市外から本市の「在宅医療・介護連携の取組」の報告依頼が増えています

令和元年8月16日（金） 会場：あざれあ
主催：静岡県訪問看護ステーション協議会
「医療機関の看護師等研修」

令和元年8月19日（月） 8月23日（金）
主催：富士宮市医師会 富士宮市
「静岡県医療介護情報連携システム説明会」



50人の受講者に「地域包括ケアシステムに向けた行政の役割」の講義を薬科地域包括ケア推進課長が行いました。ほとんどの受講者が「理解できた」「参考になる」とアンケートに回答しました。



2日間にわたり、本市の「シズケア*かけはし」の活用について川村在宅医療コーディネーターが取り組みを報告し、受講者から「地域包括支援センターと病院、行政、医師会での実務者レベルの検討会を開催できている藤枝市は凄い」という評価を頂きました。

